

令和3年度地域包括ケアに携わる多職種合同研修会

～「顔の見える関係」から「多職種協働」、そして「チーム北空知」へ～

第2回 ケア・カフェきたそらち 開催結果・評価

項目	内 容
1 目 的	北空知における地域包括ケアシステムの構築を目指して、地域の保健・医療・介護・福祉の関係機関・施設・事業所等において、患者や利用者、地域住民の支援に携わる多職種の関係職員が一堂に会することが困難な状況にあっても、互いの役割を確認・共有し、切れ目のない支援・サービスが提供される多職種連携の関係作りを構築する。
2 期待する効果・成果	○地域支援関係者、医療関係者等の多職種が情報交換・共有する関係性と環境が構築される ○多職種の交流の場を運営する組織ができる
3 日 時	令和4年2月18日（金） 18：00～19：58
4 場 所	オンライン開催（ZOOM）
5 内 容	（1）話題提供 「認知症の親と家族の葛藤」 話題提供者 社会福祉法人 幸鐘会 グループホームベにばら 及川 雅裕氏 （2）グループワーク テーマ 「認知症」 カフェマスター 妹背牛町地域包括支援センター 末岡 崇氏 サブマスター 深川市立病院作業療法士 永洞政幸氏
6 出席者	歯科医師1名、薬剤師3名、看護職9名、介護支援専門員6名、社会福祉士4名、保健師3名、リハビリ職3名、歯科衛生士2名、介護福祉士3名、事務職6名、その他2名 合計 42名※
7 結 果	（1）話題提供内容 ○自己紹介後、認知症に関するビデオを画面共有して閲覧した（「ばあちゃんの世界」約7分半）。 ○話題提供者本人が経験した認知症の母親の支援の経過について説明があった。 ○別居の両親だったが、60歳代から次第に母親の認知症が進行、物盗られ妄想から父との関係が悪化。話題提供者と妻も周囲の誤解を受け悩まされたが、もっと優しく接することができたという後悔の念を今も持っているとの説明があった。 （2）グループワーク ○各 Chat はランダムに8グループ編成され、1グループ4～5人。 （ホストとカフェマスターの2名を除いてグループ編成） ○カフェ・マスターから進行方法と、自己紹介（氏名・所属・職種・コロナ禍でのストレス解消法）について説明があった後に Chat 1 が開始され、休憩（5分）を挟んで Chat 2、全体会へと進行された。 ○各 Chat の開催時間（Chat 1：30分、Chat 2：20分）が設定され、時間になったら全体へ戻ることから、集合研修時に見られる「話し足りず、なかなか終わらない」という状況はなく、時間通りに進行がされた。 ○参加者はオンラインでの会話や、端末の操作に慣れてきている様子だった。認知症の高齢者を支援する上で必要な心構えなど意見交換することができた。 内容は「介護をする側のサポート体制も必要」「家族だからこそ冷静になれない」「本人も自分をうまく表現できないことや不安を感じている」等の課題や、「深川市ではマスコットを作り周囲のサポートをPRしている」との事例紹介もあった。 ○カフェ・マスターの説明と全体会のまとめがわかりやすく進行もスムーズだった。

【小部会で振り返り】

○：達成できた △：ほぼ達成・まあまあ良かったが課題あり ×：達成できていない・良くなかった

項目	内 容
8 評 価	<p>企画</p> <p>○地域の多職種連携の課題に即した企画だったか →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・様々な職種の方々が参加していたため、多職種連携につながった ・多職種の方の意見を聞ける機会でもあり、いろいろな事例や体験談を聞くことができ、参考になることが沢山あった ・認知症への関心が高くグループワークでも話しやすいテーマであった。多職種間で情報共有ができて良い機会になった。 <p>○テーマの選定 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・支援者が困難に感じていることが話し合われがちなところを「認知症」という広義のテーマにしたことや福祉関係者でもあり、家族の立場としての話題提供があったことで、支援者としてではなく個人としての思いも話すことができ、日々の支援で見落としていることに気づかされた。 ・直接、業務に関連のあるテーマであった事、支援する側の感情面などの課題があることから適切であった。 <p>○周知方法 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・研修開催の約1ヶ月前に、175カ所の医療介護福祉関係機関・事業所へメール・郵送。また、協議会構成員へもメールで送付された。 ・各所属でチラシを回覧するなど、参加勧奨を行った。 <p>○会場の状況 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・開始前からカフェ風の背景設定とBGMが流れ、雰囲気作りができた。
	<p>プロセス</p> <p>○小部会の打合せ・準備状況 →「○」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・ZOOM開催により、小部会3回（11/16、12/9、2/14）で内容を協議。 ・当日に向けて、グループワークの進行方法や画面共有及びブレイクアウトルーム編成等について、具体的に事前確認ができた。 ・話題提供に関する資料の配布がなく、口頭での説明のみであったため、話題提供者と連絡を密にし、必要な資料を作成するなど、参加者にとってより分かりやすく理解できる工夫が必要だった。 <p>○小部会のメンバーそれぞれの役割を遂行できたか →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・役割がなく参加のみだった委員がいたので次回から分担が必要。 ・進行とZOOM操作に慣れず、かなり苦戦したが何とか遂行できた。 ・今回はカフェマスターを市町委員から選出し、当日の補佐役として前回のカフェマスターがサブマスターとして同じ会場からサポートした。 ・カフェマスターは進行とZOOM操作に慣れずかなり苦戦したとのことから、初担当の場合は事前打ち合わせ・引継ぎのサポート体制が必要。 <p>○ねらった参加者の参加 →「△」</p> <ul style="list-style-type: none"> ・なるべく若年層の職員に参加してもらうことを目標としたが、アンケート回答者（35人/42人中）を前回（37人/42人中）と比較すると、前は20代が3%、30代が13.9%、今回は20代の参加はなく、30代で28.5%となり20～30代の合計では増加した。顔の見える関係を今後引継いでいく上でさらに若年層の参加勧奨をすすめる必要がある。 ・看護師の参加については前回と比較し増えていた。

結
果

○参加者数 →「△」

- ・定員100名としたが、参加は前回と同様42名だった。
- ・勤務市町別では、深川市25名(59.5%)、妹背牛町7名(16.7%)、秩父別町2名(4.8%)、北竜町3名(7.1%)、沼田町5名(11.9%)と、深川市内が約半数を占めていた。*
- ・委員等別では、協議会委員等が13名(31.0%)、小部会委員12名(28.5%)、委員等以外17名(40.5%)と、委員等の関係者が半数以上(59.5%)を占めていた。*
- ・参加者のほとんど(80%)が、職場からパソコンまたはタブレットを使用して参加した。
- ・同じ職場から複数名の参加があった。(妹背牛町定岡歯科医院4名と北竜町社会福祉協議会2名、深川市立病院リハビリテーション課2名。委員以外をカウント)
- ・アンケートから、40歳～50歳代の出席が62.9%を占めた。また、今回初めて参加したのは17.1%(前回27.8%)だった。

○職種 →「○」

- ・様々な職種の参加があった。

○参加者の満足度 →「○」

- ・アンケートから、楽しさ、有意義さ、役立ち共に満足度が高く、「実体験に基づく話が多く引き出しが増えた」、「久々に顔を見て話げできた」という記載もあったが、「ZOOMだと話が弾みにくい」「喋り出しのタイミングに困惑する」という記載もあった。また、今後も参加したいかについては、「参加したい」が85.7%だった。
- ・オンライン研修は、「便利でよい」が68.5%だが、「交流は集合が一番」という感想や、「操作が難しい」が8.5%(前回5.5%)、「馴染めない」5.7%(前回11.1%)という感想があり、オンライン研修が浸透してきていると思われるが、難しさを感じる一定数の参加者がいた。

○交流の場を手伝ってくれる人の確保ができたか →「×」

- ・質問への回答はなかった。
- ・運営協力員の世代交代を視野に入れながら取り組んでいくことが必要。

ま
と
め

- 多職種連携をする上で、顔の見える関係性の構築とその継続が重要であり、ケア・カフェはそれらを実現するとてもよいツールであると考え。そのためには、少しでも多くの人に参加し「顔の見える関係」になって北空知での連携がよりスムーズに行われるよう、継続した取り組みが必要。
 - オンラインでのケア・カフェは、他グループの様子や雰囲気はわかりにくいため、チャット終了後に各グループ毎に発表することや、全体会で話題を共有できるように発言を促すこと、アンケート結果からの判断が必要。
 - オンライン研修は、自宅などからも参加しやすい面はあるが、操作に慣れない参加者も一定数いること、端末や通信環境から参加しづらい場合も考えられ参加者への配慮が求められる。
 - 参加しやすい反面、「会話が弾みにくい」という意見や、全体共有ではカフェマスターからの指名が無いと自発的な発言が無い状況だったので、今後の運営に工夫が必要。
 - 「集まって話がしたかった」という意見が前回同様あったが、集合形式での開催は難しい状況が続いていることから、オンラインでも満足度は高いと言え、今後も開催方法を状況に応じて検討し、20歳～30歳代や委員等以外の参加者が増えるような周知が必要。
 - 前回同様の進行とタイムスケジュールのためか、今回は「参加したくない」という回答もあることから、マンネリ化しないよう、構成の検討が必要。
- 注：文末が「※」となっている文中の数値は申込名簿から使用。それ以外はアンケートからの数値を使用。